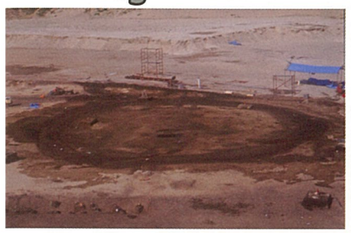
発掘された馬たち

～平成26年の干支・馬にまつわる出土品の紹介～

全国的に馬が普及したのは古墳時代中期（５世紀以降）で、馬の利用は、軍事、交通といった分野で大きな発展をもたらしました。全国の古墳に馬具（馬に乗るときにつける鞍（くら）などの道具）が副葬されはじめ、馬の形をした埴輪（馬型埴輪）などが見られるようになります。

県内では、湯梨浜町の長瀬高浜（ながせたかはま）７号墳（古墳時代中期～後期）の周溝（古墳のまわりに巡らされた溝）に掘られた馬の墓から馬の骨や歯が出土しており、７号墳に葬られた人と何らかの繋がりがあるのではないかと考えられています。

当時はまだ数も少なく貴重な馬は、使用者の墓である古墳に、愛馬という特別な存在として共に葬られたのかもしれません。鳥取県内で発掘された馬にまつわる出土品を紹介します。



長瀬高浜遺跡７号墳

馬の歯の出土状況

東部の出土品

馬形（うまがた）

青谷横木遺跡出土（鳥取市青谷町）

青谷横木遺跡では９～10世紀（平安時代）の人形（ひとがた）や馬形などの木製祭祀具（もくせいさいしぐ）（木でできたお祓いの道具）が3,000点以上出土しています。この出土点数は、都を除いて全国でもトップクラスです。

また、遺跡周辺には馬を乗り継ぐために置かれた柏尾駅（かしわおえき）（駅家（うまや））が置かれ、古代「山陰道」が通っていたと考えられています。

中部の出土品

馬形埴輪（写真提供：倉吉博物館）

西山８号墳出土（倉吉市上神字西山）

埴輪（はにわ）は古墳の墳丘（ふんきゅう）上に立てられた主に素焼きの土製品のことです。動物などをかたどった形象（けいしょう）埴輪の中には、馬の形をしているもの（馬形埴輪）があります。倉吉市の西山８号墳では、馬形埴輪が見つかっています。

倉吉博物館の常設展示で見学できます。（電話 0858-22-4409　休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）・祝日の翌日・年末年始　開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで））

馬に関係する出土品に関しては
『鳥取県の考古学第４巻　古墳時代Ⅰ』
『鳥取県の考古学第５巻　古墳時代Ⅱ』
『鳥取県の考古学第６巻　古代・中世・近世』
に詳しく掲載しています。購入方法などは裏表紙の「販売図書のご案内」をご覧ください。

西部の出土品

石馬（国指定重要文化財）

（写真提供：米子市教育委員会）

石馬谷古墳出土（米子市淀江町）

現在は天神垣神社に保管されていますが、元々は石馬谷（いしうまだに）古墳に置かれていたと伝えられています。角閃安山岩（かくせんあんざんがん）で作られ、体長150cm、高さは53cmで、鞍、手綱（たづな）など馬具を着けた状態がはっきりと分かります。

石人、石馬は北西九州の古墳から多く出土していますが、本州では、この石馬しか確認されておらず、古墳時代の九州と当地域の交流を考える上で貴重な資料となっています。

見学希望は、「上淀白鳳の丘展示館」にお問い合わせください。

（電話 0859-56-2271　休館日 毎週火曜日・祝日の翌日・年末年始　開館時間 9:30～18:00（入館は17:30まで））

出前講演会開催中

埋蔵文化財センターでは、鳥取県の考古学について広く情報発信するため、職員（文化財主事）が各地に出向き、「出前講演」を行っています。講演の実施にあたっては、講師への謝金は不要です。（旅費についてはご相談ください。）会場については御準備ください（会場使用料等の経費は申込者負担でお願いします）。

各種研修会や地域の歴史学習会等でご活用ください。

※写真は今年度日野町で開催した様子

●テーマの一例紹介

会下・郡家遺跡の古代

平安時代の大きな建物跡や、限られた場所でしか出土しない緑釉陶器が見つかった会下・郡家遺跡のようすについて、分かりやすく解説します。

●担当者からひとこと

緑色の釉薬（うわぐすり）をかけた器はどのような人たちが使ったのか、大きな建物はどのように使われたのか、そこからみえてくる平安時代の様子はどのようなものだったのか？1000年前に思いを馳せてみませんか？

田中文化財主事

その他のテーマも今後紹介していきます。
出前講座は、ホームページでもご案内しています。
http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=28013

発掘！ 文化財キャラ

～県内の文化財キャラ紹介コーナー～

〈青谷上寺地遺跡のAKJ9〉

国指定史跡青谷上寺地遺跡の９体のイメージキャラクター。青谷高等学校の生徒が美術の授業でデザインしました。今後 12 月まで募集していた AKJ の四コマまんがとイメージキャラクターの受賞作を発表予定！詳しくはこちら
http://www.aoyakamijichi.com/

〈ファンキーシャーク〉

青谷上寺地遺跡の出土品にはサメが多く登場しており、土器の側面や木製琴板には大きく堂々としたサメが、木製の箱板には何匹も泳ぐように描かれています。

鮫の描かれた青谷上寺地遺跡の出土品

●AKJ９のストラップとマグネットが発売中！

【取 扱 い】青谷上寺地遺跡展示館、あおや和紙工房、あおや郷土館、青谷ようこそ館、砂丘観光施設、道の駅白兎など
【価　　格】各 300 円（税別）
【この記事に関するお問い合わせ先】
鳥取県教育委員会　文化財課（0857）26-7934

つくってみよう！弥生のイメージレシピ

【冷めてもモチモチミル栗ープ】

調理時間 60分　費用一人 約400円

【材料】（2人分）

〈クレープ生地〉
米粉 …… 35g
薄力粉 …… 35g
砂糖 …… 20g
全卵（M）…… 2個
牛乳 …… 200g
無塩バター …… 10g

〈栗クリーム〉
栗（甘露煮）…… 350g
牛乳 …… 150g

作り方

●下準備　・バターを溶かしておく　・栗の水気を軽く切っておく。
①米粉、薄力粉、砂糖をボウルに入れ、泡立て器で混ぜ、中央をくぼませる。
②くぼみによくときほぐした卵を入れ、泡立て器でざっと混ぜ合わす。
③牛乳を少しずつ加えて生地をのばしていき、溶かしバターを入れて混ぜる。
④生地はラップをして常温に置いておく。
⑤栗、牛乳をミキサーにかけてから、軽く火にかける。このときクリームが固いようなら牛乳を少しずつ加えてのばす。
⑥クリームは冷蔵庫で冷やしておく。
⑦熱したフライパンに、生地をお玉の半分くらい流し入れて、中火で焼く。
⑧両面焼けたらお皿に重ねていく。
⑨生地が冷めたらクリームを生地の中心寄りにぬり、重ねていく。この作業を繰り返し、好みの高さまで積み上げる。
⑩できあがり

青谷上寺地遺跡ってなんだろう？

鳥取市青谷町に所在する弥生集落遺跡です。保存状態の良い出土品が多く、その別名も「地下の弥生博物館！」奇跡的に残った「弥生人の脳」も、この遺跡から出土しています。

入賞者の藤井尚花さんのコメント

弥生時代には栗が食べられていたそうです。
栗は今でもたくさん食べられていますし、どこに行っても手に入る食材なので、お手軽でいいなぁと思いました。きっと弥生時代には、まだ米粉なんて開発されていなかったと思うので、是非お米がこんなにもおいしくなったんだということが伝わればいいと思います。